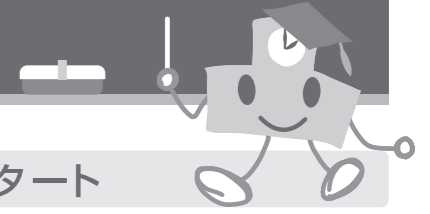


小学校の事例 中央区 山鼻小学校

# 明治天皇ゆかりの古木にちなんだ活動。 様々な色の花で地域を飾る。

校区に緑を保持するため植樹や  
児童が種から花を育てる活動をしている。  
達成感や環境に対する意識を  
高めていけるような取組に。



## はじめり 歴史ある木にちなみ 植栽活動をスタート

本校の校区には緑が少なく、学校や近隣の緑を保持していくことが重要な課題となっているため、植栽活動に力を入れている。

かつて地域には、明治天皇が屯田兵に声をかけた場所に「お声がかりのカシワの木」があり、住民や児童が親しんでいた。しかし、交通量の増加による空気汚染が影響したのか、昭和51年に枯れてしまった。

そこで都会での環境を考える取組の一環として、児童とともにカシワの幼木を植樹。今では3~4メートルまで成長している。このエピソードについて、全校集会など、折にふれて校長が話しているため、児童も皆、知っており、カシワの木を大切に見守っている。以来、本校では植樹に限らず、緑を大切にする植栽活動を続けている。

## 内容 種から花を育て プランターに移植

本校では児童がペチュニアやマリーゴールドなど様々な種を蒔いて苗を育て、プランターに移植。それを地域のメインストリート沿いの花壇に各学年ごとに移動させて飾っている。植える花は、地域の花植え

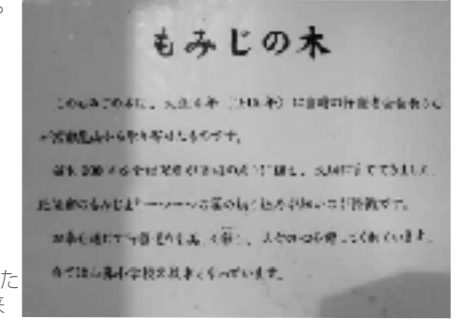
事業「マイフラワーマイタウン」で提供いただいたものも使用しており、学級ごとの花壇も活用している。10月には花が枯れたものを処理し、春に花が咲くようチューリップの球根を植えている。

## 効果 緑を大切にする気持ちを育む

植栽は地域や通行人の目を引く位置にある。児童は通学の際などに見ることができ、自分たちが大切に育てた種や苗が鮮やかに花開く姿を観察することで、達成感や緑を大切にする気持ちをもつことができている。

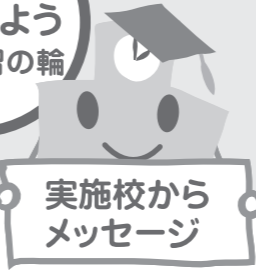
校地内には、モミジ、カエデ、イチョウ、その他の樹木が数多くある。モミジは大正4年、当時の保護者会会長が京都嵐山から取り寄せた苗木200本を全校生徒で植樹したもの。現在も街路樹として、見事な葉で  
行啓通を彩っている。地域の歴史的な背景や緑を大切にしてきた背景や

緑を大切にしてきた本校の伝統を踏まえ、日々の指導の中で、児童の自然や環境に対する意識を高めるように努めている。



「嵐山」から取り寄せた「もみじの木」の由来

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

子供たちは自分たちの住む地域の歴史やそれを踏まえた取組を、「当たり前」と感じています。別な場所との違いに気付いたとき、誇りをもってふるさとを大切に振りかえられるよう、美しい桜や景色を目に焼き付けてほしいと思っています。  
また、開拓について再認識することで、自分のふるさとの歴史にも自信をもって  
もらえればと願っています。